

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

事業の概要

事業名	空港・港湾等アクセス 一般国道107号 白石峠工区	事業区分	一般国道	事業主体	岩手県
起終点	自：岩手県大船渡市日頃市町 至：岩手県気仙郡住田町世田米	延長	2.7km		
<p>事業概要</p> <p>一般国道107号は、岩手県大船渡市から北上市を経由し秋田県由利本荘市に至る道路であり、本事業は、重要港湾である大船渡港と中枢中核都市である盛岡市や産業集積が進む県南地区を結び、平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保等を目的とし、大船渡市日頃市町～気仙郡住田町世田米までの延長約2.7kmを整備するものである。</p> <p>事業の目的、必要性</p> <p>当該事業の整備により、大船渡港と内陸部の移動時間短縮、定時性の向上、交通事故減少による安全性の向上、物流活動等の効率化・活性化が図られることで、地域の経済的な復興が期待される。</p>					
全体事業費	約9.4億円	計画交通量	5,800台/日		
<p>事業概要図</p> <p>出典：地理院地図に路線番号、主要施設等を追記して掲載</p>					

関係する地方公共団体等の意見

- 「岩手県道路事業実施計画」（令和4年3月策定）の主要事業に位置づけられている。
- 沿線自治体や関係団体等で構成される「気仙地区商工団体」等から、本事業の早期完成の要望活動が行われている。

学識経験者等の第三者委員会の意見

- 国庫補助事業に係る道路事業評価委員会（令和4年2月24日）において、新規事業化は妥当であると了承。

事業採択の前提条件

- 費用対便益：便益が費用を上回っている。
- 沿線自治体や関係団体などから早期整備の要望を受けており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.2	総費用：6.6億円 （事業費：6.5億円 維持管理費：1.1億円）	総便益：8.2億円 （走行時間短縮便益：7.2億円 走行経費減少便益：7.9億円 交通事故減少便益：1.4億円）	基準年 令和3年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1（交通量 -10%）	B/C=1.4（交通量 +10%）	
		事業費変動	B/C=1.1（事業費 +10%）	B/C=1.4（事業費 -10%）	
		事業期間変動	B/C=1.1（事業期間 +20%）	B/C=1.3（事業期間 -20%）	
事業の影響	評価項目		評価	根拠	
	自動車や歩行者への影響	渋滞対策	—	・注目すべき影響はない。	
		事故対策	◎	・幅員狭小、急勾配、線形不良区間の回避による交通事故の減少が期待される。	
		歩行空間	—	・注目すべき影響はない。	
	社会全体への影響	住民生活	○	・第三次救急医療施設である大船渡病院から内陸にある岩手医科大学付属病院（矢巾町）へ迅速かつ安定した救急搬送が期待される。	
		地域経済	◎	・大船渡港と盛岡市や産業集積が進む県南地区とのアクセスが強化され、定時性の向上により、物流の効率化が図られ生産性の向上が期待される。 [大船渡港～宮守ICまでの所要時間] 整備前：53分 → 整備後：49分（約4分短縮）	
		災害	◎	・緊急輸送道路として、大規模災害時における後方支援拠点（遠野市、北上市）へのアクセスルートの機能強化が図られる。	
環境		—	・注目すべき影響はない。		
地域社会	○	・内陸と沿岸を結ぶ広域道路ネットワークの機能強化により、都市間の交流・連携の強化が期待される。			
事業実施環境	○	・大船渡市、陸前高田市、住田町、関係団体から早期整備の要望を受けている			

採択の理由

事業主体である岩手県が実施した評価結果に基づけば、費用便益比が1.2と便益が費用を上回っており、事業採択の前提条件が確認できる。

また、幅員狭小、線形不良区間の回避による安全性向上、救急搬送時間の短縮、平常時・災害時を問わない安定的な輸送ルートの機能強化が見込まれることから、当該事業の整備の必要性・効果は高いものと判断される。

以上により、本事業は令和4年度新規事業箇所として妥当であると考えられる。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。